

海軍物産部部長

二水戰機密第二四號ノ一三

昭和十七年十二月一日



外南洋部隊増援部隊戰鬪詳報 第三號

(第二水雷戰隊戰鬪詳報 第一四號)

自昭和十七年十二月二十九日
至昭和十七年十二月三十一日
第一次加島輸送作戰及ルカ沖夜戰

第二水雷戰隊司令部

0952

134

15102

一月五日發行



5

8960

第一
第二
第三
第四
第五
第六
第七

形勢
計畫
經過
達
報告
等
戰功
戰果
戰績
戰訓
所見

目次

(目次終)

135
7960

外南洋部隊増援部隊戦闘詳報 第三號

(第二水雷戰隊戰鬥詳報第一四號)

自昭和十七年十一月二十九日
至昭和十七年十一月一日 第一次加島輸送作戰及ルンガ沖夜戰

第一 形勢

一、加島ニ於ケル敵航空兵力ハ約一〇機(戦闘機四〇爆撃機四〇大型機二〇)程度ニシテ後方第一線基地ニモ有力航空部隊ヲ配シガ島周辺、制空權ハ全ク彼ノ手中ニ在リ

同方面敵水上兵力ハ巡洋艦數隻驅逐艦十數隻魚雷艇八隻以上ヲ有シ北月後ニ戰艦及空母ヲ以テ支援シアル算大ナリ
敵輸送船ハ自晝堂々ルニガ沖ニ入泊シ敵陸上兵力、増強亦推知スルニ難ラス

惟フニ敵ハ加島ヲ以テ反撃手攻勢ノ據点ト爲シ極力之ヲ確保シガハ
ベク連日廣範圍綿密ナル索敵ニ依リ我が動靜ヲ知悉シ航空機及ハ
水上兵力ヲ積極的ニ活用シテ我が増強ヲ阻止シ補給線ヲ遮断シテ

同島ニ於ケル我陸上兵力ヲ孤立自滅ニ陥ラシメ併セテ之ヲ囮トナシ
我が水上兵力ノ漸減ヲ企圖スルモノ如シ

ニ我が基地航空部隊ハ既往ノ作戰ニ人員機材ノ消耗甚シク目下之ガ
補充整備訓練中ニシテ航空撃手減戦ハ全ク中絶ノ情况ナリ
直接ソロモン方面ニ作戰スベキ丙空襲部隊（スイン基地）R方面航空
部隊（シヨートランド基地）ノ兵力ハ夫々艦戦一艦爆八及観測機一二機
程度ニシテ極メテ少力勢ナリ
外南洋部隊主隊及支援隊ハ夫々ラバウル及カビエンニ在リテ待機中ナリ
ガ島ニ於ケル陸海軍部隊ハ糧秣彈藥ノ缺乏甚シク戦線概不固着シ
アリ
右ノ情况ニ於テ我ハ極力ムンガ及バラレ航空基地ヲ整備シ十月下旬
之ガ完成ヲ待ツテ海陸航空部隊ヲ進出シ逐次陸軍部隊ヲ増強シテ
攻勢ニ轉セント企圖シ其ノ準備期間ニ於テハガ島陸海軍ニ對シ
生存ニ必要ナル糧食ト抵抗ニ必要ナル彈藥ヲ補充シテ現對勢ヲ
保續セント努ルメツツアリ

而シテ敵制空下輸送船、使用ハ固ヨリ不可能ニシテ驅逐艦ヲ以テスル
急速輸送及潜水艦ヲ以テスル隱密輸送ヲ計画セラレ特ニ前者ニ於テ
ハドラム正利用、新方法ヲ採擇セラレタリ

三右情勢下ニ於テ驅逐艦輸送作戰ノ特性ヲ考察スルニ

- (イ) 敵制空權下ニ獨力突入シ敵航空機ノ好餌トナル機會多シ
- (ロ) 我が行動ハ地域ノ時間的ニ束縛セラレ必ズ敵ノ綿密ナル索敵網ニ
掛リ敵ハ我企圖行動ヲ知悉シ如何ル對應策ヲモ講スルコトヲ得
- (ハ) 我ハ輸送ト戦斗ト、歧路ニ立チ敵水上兵力ニ對シ極メテ不利ナル情況ニ
於テ相對セサルベカラズ
- (ニ) 本作戦ニ從事スベキ驅逐艦ハ決戦兵力ノ精銳ニシテ其ノ損傷ハ作戰ノ
全局ヨリ見テ實具ニカバベカラサルモノアリ

蓋シ是レ作戰ノ常道ニ非ズシテ變則ナリ 變則ヲ反覆常用スルハ策ノ
得タルモノニ非ズ由是觀之本輸送成功ノ算必ズシモ大ナラズ而モ
9960 加島現狀ハ此ノ窮餘一策ヲ敢テ強行スルノ已ハナキ形勢ニ在リ

四東部ニ一ギヤ方面ニ於テモ敵ハ有力ナル航空部隊ヲ以テ攻勢ニ
出テ情勢極メテ急迫シアリ

第二 計画

機密外南洋部隊増援部隊命令作第三號ノ通
本作戦ノ主目的ハ輸送ニ在ルモ敵水上兵力ト會敵決戦ノ算大ニシテ
之ニ對スル指揮官ノ腹案對策概テ左ノ如シ
一會敵時ハ輸送ニ拘泥スルコトナク戦斗本來ノ單一目的ニ邁進シ
敵撃滅ヲ期ス

二敵有力部隊ノ存在ヲ豫メ偵知シ得タル場合ハ會敵ヲ避ケ一旦
避退シ輸送ノ再興ヲ圖ルコトアリ

2957
三揚陸作業中及其前後ノ虛点ヲ防護スル爲輸送量ヲ犠牲ト
スルモ必要ナル警戒艦ヲ配ス

137

8960

四日出没時ニハ、島ヨリ一六〇哩程度離隔シアルヲ標準トシ出來得ル
限り空襲ヲ避ク

参考

外南洋部隊電令作第二五二號（一九四〇年七月）

増援部隊指揮官ハ左ニ依リ、カヌルカナルニ對スル陸海軍用糧秣及
彈藥ノ輸送ヲ實施スベシ

(1) 揚陸日 十月三十日 十一月三日 六月九日 十二月

(2) 充當驅逐艦 第一次乃至第二次輸送八隻以後約一六隻

揚陸点「タサロン」及「セギラウ」河口附近狀況ニ依リ「エスヘランス」
併用

第三 經過

日時

十月二十九日
 二二四五
 二三〇〇
 十一月三日
 〇一三〇
 〇七三〇
 一二〇五
 一二三〇
 一三二五
 一四二〇
 一四五〇
 五〇〇
 六四五
 七〇〇

記

事

第一次が島輸送部隊「ショートランド」出撃
 速力三四節 一番隊「長波二三番隊」順序ニ縦陣列制形
 針路八〇度
 針路八〇度 触接ヲ受ク(八二〇見失フ)
 針路一八〇度 第一警戒航行序列ニ占位
 増援部隊(今夜會敵)算大ナリ會敵時ハ揚陸ニ
 拘泥スルコトナク敵撃ヲ減ニ努メヨ
 味方直衛戦機四機來着(二四〇見失フ)
 同 更ニ四機來着(一五五見失フ)
 味方直衛観測機一二機來着(一六五見失フ)
 速力三十節
 第二警戒航行序列ニ占位
 (沖集參電)本三十日ルニ沖ニ入消セル敵輸送船九隻
 驅逐艦一二隻

138
0960

二一三三	二一一二	二一〇〇	二一〇〇	二一〇〇	二一〇〇	二〇四〇	二〇四〇	二〇三〇	一九四〇	一八五〇	一八四〇	一八〇〇
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

猛雨為行動困難ナル 速力適宜

雨止

第二戰速

針路二二〇度

第一戰速

針路一九五度

カボ島南方々向ニ敵機四航空灯ヲ點ジ低空旋回中ナルヲ認メ

高波ヨリ一〇〇度方向ニ敵ヲシキ艦影見ユ

高波ヨリ敵驅逐艦七隻見ユ

↑ 増援部隊一揚陸止メ戦斗

長波九〇度方向約一〇〇〇米ニ驅逐艦七隻ヲ認め

敵機吊光彈投下ト同時ニ敵一斉ニ身重隊始

↑ 増援部隊一突進セヨ

長波第五戰速

長波敵巡洋艦又ハ驅逐艦ニ對シ射撃手開始

長波反轉北西、針路ヲ執リ敵情ヲ確メ煙幕展開張(四分間)

1960

二一三	二一五	二一七	二一八	二一九	二二〇	二二一	二二二	二二三	二二四	二二五	二二六	二二七	二二八	二二九	二三〇	二三一	二三二	二三三	二三四	二三五	二三六	二三七	二三八	二三九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

涼風敵巡洋艦二對シ射撃開始
 親潮敵戰艦一其後方巡洋艦一其ヲ認ム
 敵驅逐艦二隻ニ火炎起ル(高波射撃手ニ依ルモノト推定)
 黒潮敵巡洋艦(バンサコラ型)ニ對シ發射(二本)
 親潮敵戰艦ニ對シ發射(八本)(二三四二本命中ヲ認ム)
 長波射撃中止
 長波敵戰艦同航スルヲ認ム
 卷波艦尾方向ニ敵魚雷一本通過スルヲ認ム
 長波敵戰艦ニ對シ發射(八本)長波射撃再興
 長波附近ニ敵彈雨注ス(大口徑彈アリ)
 長波煙幕展張(三分間)
 江風敵巡洋艦ニ對シ發射(八本)
 敵戰艦ニ火炎起ル
 敵魚雷二本長波右舷ヲ通過
 敵巡洋艦一其車輪沈(江風魚雷ニ依ルモノト推定)
 右北方ニ於テ敵驅逐艦一其車輪沈

二二四四
二二四五
二二五〇
二二五二
二二五三
二二二五
二二二六
二二〇〇
二三二一
二三三〇
二三三〇
十月三十一日

増援部隊 中央航路 避退セヨ

黒潮敵艦二對シ 發射(四本)

高波電話連絡ナシ

陽炎敵艦二對シ 發射(四本)

陽炎敵艦損傷艦ヲ 照射シ 巡洋艦(オノガスタ型)一隻四分三

沈没 戰艦一隻(ワシントン型) 傾斜沈没中ナルヲ 認ム

一番隊ニ高波ノ 状況調査ヲ 命ズ

一番隊一小隊 反轉高波調査ニ 向フ

同右高波ニ 會合救助作業開始

親潮救助艇ヲ 却シ 黒潮横付ヲ 試ミシニ 敵巡洋艦二隻

驅逐艦三隻 來襲ヲ 認メ 救助断念 避退ス

親潮敵艦 大爆發ヲ 認ム

各隊中央航路上 最大戦速ニテ 避退ス

増援部隊 ショートランド 着

高波戰鬥經過 (生存者航海長 江田豫備中尉ヨリ 聴取)

二三三七

二三三〇頃

右直後

二三三〇頃

二三三〇頃

二三三〇頃

二三三〇頃

二二四〇頃

二二四〇頃

二二二二

二二二一

二二二〇

敵巡洋艦驅逐艦七隻ノ集中射撃ヲ受ク
 高波巡洋艦(又ハ驅逐艦)ニ對シ射撃手限始
 九斉射(前部砲六斉射)ニテ敵艦二隻ニ命中彈ヲ得
 全魚雷發射効果不明
 多數命中彈ニ依リ航行不能トナル
 敵戰艦車轉沈スルヲ認ム
 敵驅逐艦一隻沈没スルヲ認ム
 親潮黒潮救助ニ來ル
 同右離去ス
 敵驅逐艦一隻近接シ來リ味方識別信號ヲナセシモ暫時ニシテ
 去ル
 大損傷ヲ蒙レル敵大巡約五〇〇米迄近接シ來リシモ双方
 交戦ノ余カタク敵退ス
 司令ノ命ニ依リ自沈ノ處置ヲ講ジ艦大傾斜スルニ及ビ生存者
 約一〇名退去ス
 敵魚雷艦尾ニ命中爆發引續キ爆發誘爆シ、サボ島、南方

140.

1960

(註) 約五哩ニ於テ沈没ス
高波ノ時刻ニ相當ノ喰邊ニアルベシ

141

9969

第四 今達報告等
別紙関係電報寫通

一 敵損害
第五 戦果

驅逐艦	一隻 車轉沈	三隻 火災 (内一隻沈没)
巡洋艦	(オーカスタ) 刑上 一隻 車轉沈	一隻 大破
戰艦	(ワシントン) 刑上 一隻 撃沈	

二 我損害
高波 沈没
長波小損 (弾片命中)

備考

高波沈没時海中ニ飛込ミタル者、約百名ト推定セラレルモ敵魚雷命中爆發及爆發誘爆ノ衝撃ト海上ニ流レタル魚油火災ニ

依り海中ニ於テ相當ノ死者アリガ島ニ泳グ着キシ者ニシテ十二月五日迄ニ判明セルモノ生存者准士官四名下士官兵ニ九名ナリ
 司令ハ一日朝ガ島距岸一〇〇米ニ於テ認メタリト稱スル者アルモ其後ノ消息不明
 驅逐艦長ハ艦橋ニ於テ戦死

第六 功績

増援部隊ハ敵制空圏下ニ進撃シ驅逐艦八隻ノ寡兵ヲ以テ満ヲ持シテ待機セル戦艦一隻巡洋艦四隻以上驅逐艦十數隻ノ敵大部隊ニ敢然強襲ヲ決行シ如上ノ大戦果ヲ收メ得タルモノニシテ参加各隊艦ノ功績ハ披群ナリ

高波ハ警戒艦トシテ敵側先頭ニ進出シ適切ナル敵情報ヲ爲シ有効ナル射撃ヲ以テ敵驅逐艦二隻ニ火災ヲ生セシメ該火災ハ敵隊列ノ北月影ヲ照明シ全隊ノ戦斗ヲ有利ニ導キ其ノ功績

特筆顯彰スルニ足ルモノアリ

備考

加部隊

二水戰司令部(長波ニ將旗掲揚)

十五驅逐隊(親潮 黒潮 陽炎)

三驅逐隊(高波 卷波 長波)

三駆逐隊(江風 涼風)

第七 戰訓 茲ニ所見

一知敵ハ作戰ノ先決要件ナリ敵飛行索敵ノ廣汎且綿密ナルニ

比シ我方ノ索敵ハ尚十全トハ稱シ難ク本夜戰ニ於テモ突如不測ノ

強敵ニ直面セリ敵ハ島周辺ニ有力ナル支援隊ヲ配シ我艦ヲ

企圖ヲ偵知スルヤ急遽進出シ來ルハ第三次ソモン海戰以來ノ

慣用手段ニシテ我水上部隊進撃スル場合同島周辺ノ索敵ニ関シ

一段ノ考慮ヲ必要ト認ム

ニ輸送ト戰鬪トハ互ニ兩立シ難ク對敵顧慮大ナル場合指揮官ノ最モ
苦慮スル所ナリ 會敵即戰鬪ハ原則ハ明白ナルモ實施ハ

斯クハ間單ニ非ズ

入テ次夜戰ニ於テモ先頭輸送隊ハ既ニ原速カトナシドラム庄ノ固縛ヲ
解キ始メタル狀況ニシテ上リニ於テ相當ノ不利アリシヲ否定スル
能ハズ

三本夜戰ニ於テ敵ガ我が出鼻ヲ叩クノ與手ニ出テ松我ノ寧ろ幸トスル
處ナリ 若シ入泊揚陸ノ慮ニ乘ジ急遽侵襲シ來ラバ其ノ結果
知ルベキノミ故ニ聊カナリトモ敵水上兵力存在ノ算アルニ於テハ少クモ
一箇驅逐隊程度ノ警戒隊ハ絶對必要ナリト認ム

四照射ハ自艦ノ隱密性ヲ失ヒ友隊ヲ妨害スル機會アリ 特ニ敵照明
機ノ活躍下ニ於テハ其ノ蝟集ヲ招ク不利アリ

143.

6960

今次夜戰ノ情況ニ於テ照射ノ可否ハ研究ノ余地アルモ敵ノミ我ヲ
 照明眩惑シ我ヨリ敵ヲ照明スルノ手段ナキニ於テハ其ノ不利
 忍バベカラサルモノアリ 駆逐艦ニ於ケル照明彈利用ノ機會少カラサル
 モト認ム 今次夜戰ニ於テハ早期敵驅逐艦火災トナリ爲ニ敵北月景ヲ
 照明セル結果偶然敵情視察ヲ助ケタルモノナリ

五夜龍表ハ我海軍ノ傳統的戰法ニシテ寡能ク衆ヲ斃シ得ルハ幾多ノ
 戰例克ク之ヲ明證ス 本夜戰ニ於テハ我ニ不利ナル狀況ニ於テ
 之上リシニ拘ラス尚且大戰果ヲ收メ 彼我夜戰能力ニ於テ甚シキ
 懸隔アルヲ示セリ 加島ノ如キ局地ニ於テハ精練ナル一箇水戰ヲ以テ
 セバ敵水上兵力ニ関スル限り如何ナル強敵モ撃手滅シ去ルノ自信ヲ
 得タリ

敵ハ我カ企圖行動ヲ察知シ豫メ照明機ヲ空中ニ待機セシメ砲戰
 陣列ヲ整正ヘ能ク先制砲撃ノ利ヲ收メ得タルモ射彈ノ精度良好
 ナラス 特ニ苗頭偏彈多ク射撃術力ノ見ルベキモノナシ 或ハ吊光彈ニ

依ル照明ハ被照明者側ノ感じ程有効ナラハルニアラズヤトモ推量セラル

七 襲撃運動ノ見地ヨリ見ル本夜戦ハ協同及肉迫ノ要則ニ於テ必ズシモ上乘ニ非ズ之ガ原因左ノ如シ

(イ) 敵有力部隊ノ存在ヲ豫期セハリシ事

(ロ) 輸送ト戦斗トノ歧路ニ於テ急上リシコト

(ハ) 接敵隊形攻撃力一齊ヲ發揮ニ最適ナラハリシコト

(ニ) 敵情明確ナラハリシコト

(ホ) 敵ノ有効ナル照明並ニ眩惑

(ヘ) 敵ノ先制砲撃ト其ノ猛射

八 砲戦ハ高波ニ於テ効果ヲ擧ゲシ外語ルベキモノナシ

南方戦場ニ於テハ無照射々撃ヲ必ズシモ困難ニ非サルモ敵ノ照明

眩惑裡ノ無照射撃手ハ一般ニ困難ナリ

144
T269

九本夜戦は既往の戦例ヲ見ルニ敵ハ戦艦巡洋艦ヲ積極的ニ
活用シ而我カ對敵正面ニ曝露シアルコト多シ夜戦指導上
注意スベキ点ナリ

○今次輸送ニ於テ積荷ノ關係上艦ノ安定性ヲ考慮シ豫備
魚雷ヲ卸シアリシモ魚雷ヲ發射シ盡シタル驅逐艦ハ攻撃力ノ大部ヲ
失フニ鑑ミ輕々ニ斯ル處置ヲ爲スハ戒ムヲ要スルモノアリ

二黒潮ニ於テ自爆魚雷ニ認メタリ挺身發射スベキ魚雷ニ此種
事故ヲ断タルハ眞ニ痛恨事ニシテ速ニ對策ヲ講ズルヲ要ス
尚現状ニ於テハ作戰繁多ニシテ魚雷調整手ノ機會ヲ得難ク
此點ニ於テモ自己ノ魚雷ニ全幅ノ信賴ヲ措ク能ハサル狀況ニシテ
出來得レバ之ガ調整保管施設ヲ前線ニ設クル要アリト認ム

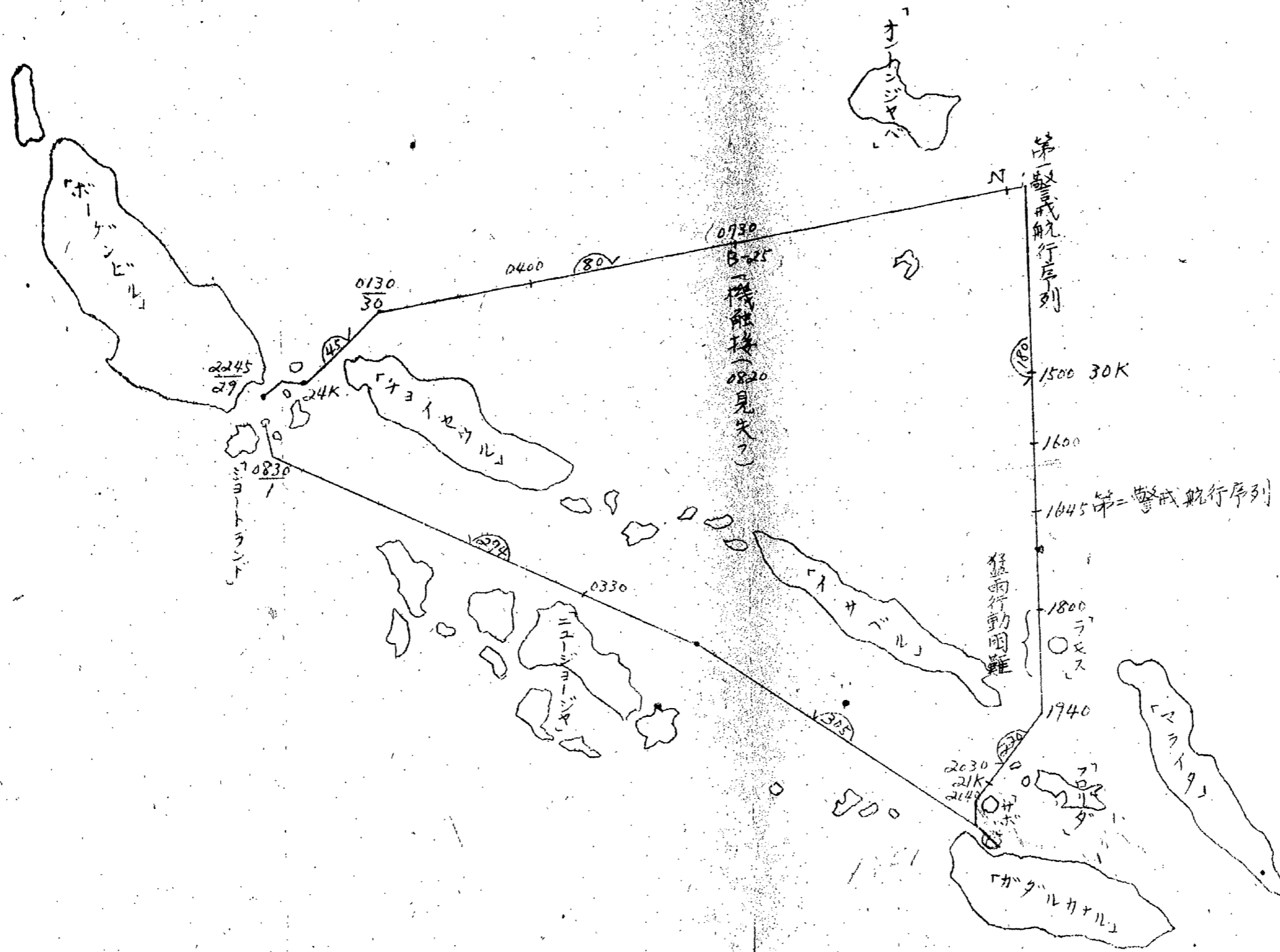
(終)

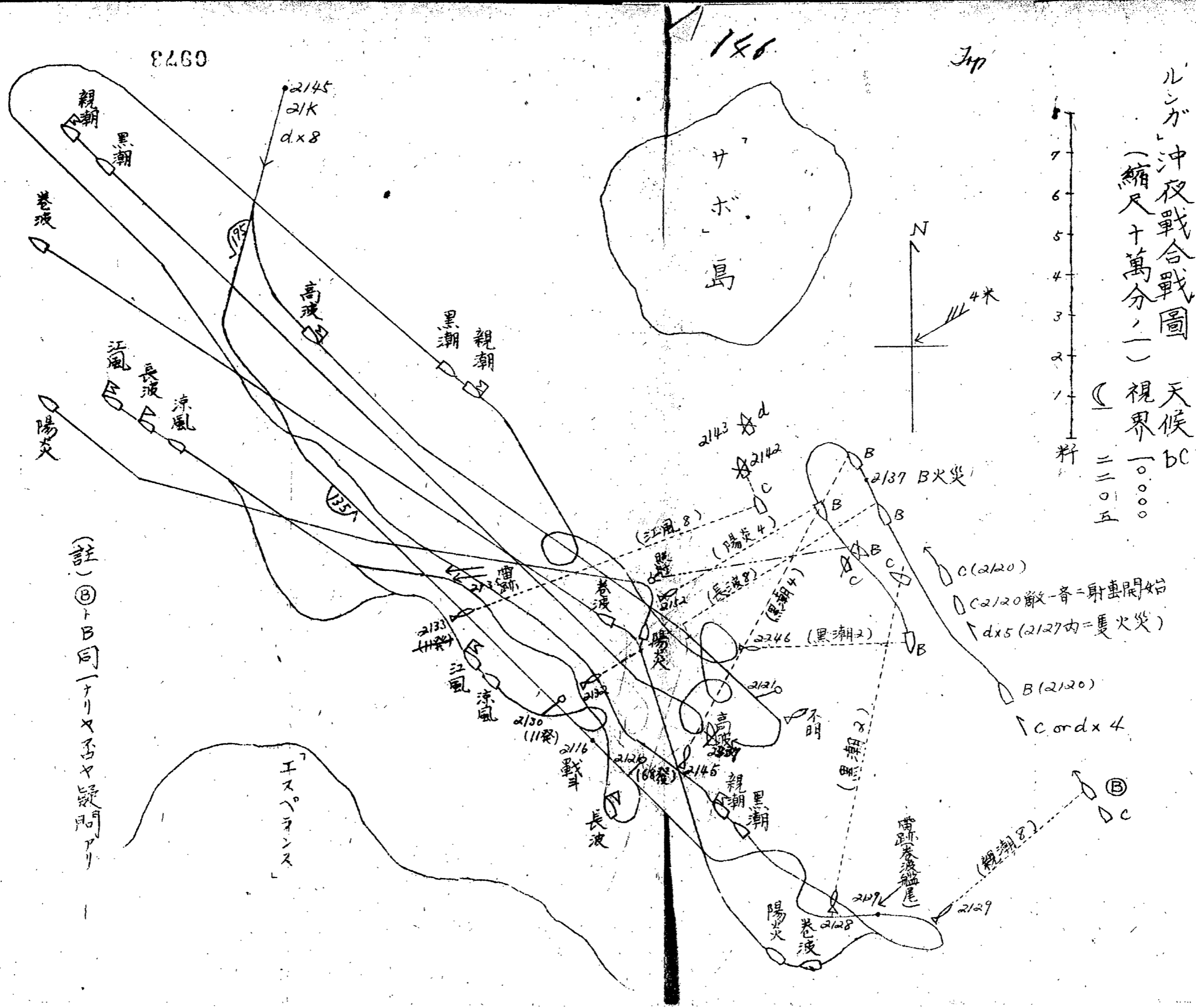
7460

745

JAP

加島第一次輸送部隊行動圖
〔南方要圖と同尺度〕





ルンガ沖夜戦合戦圖
 (縮尺十萬分の一) 視界 天候 BC
 料 二二〇五

(註) ①トB同一ナリヤ否ヤ疑問アリ

「エス・パ・オ・ス」

147

6260

三軍隊區分

増援部	區分	指揮官	兵	力	任
警戒隊	分	P 25d	3/dg (巻波)	カ	糧食輸送中敵奇襲警戒
第1輸送隊	隊	P 15dg	15dg (巻波)	波	ドラム正各艦百個タサアロシク輸送
					務

増援部隊(海風欠)ハガ島ニ對シ十一月三十日ドラム正ニ依ル第一次
急速隱密輸送ヲ實施セントス

増援部隊命令
敵益ガ島増援ヲ強化シ其空軍活躍ハ愈熾烈ナリ同島陸上戦
線ハ概テ固着シ我陸軍部隊ノ糧食彈藥甚シク缺乏セル現状ナリ
友軍潜水艦ハ連日カミシボニ糧食輸送中ナリ

機密外南洋部隊増援部隊命令作第三號

昭和十七年十一月二十八月、シヨートランド長波

増援部隊指揮官 田中頼三

隊
第三輸送隊
□
24kg (海風鉄)
同右
ニ。個セガラウ輸送

四 行動作業

(1) 行動豫定 (別圖第一)

三月九日三三〇シヨートランド發 長波 順序ニ北口オエマ島南方
 通過ヨリ出撃 同順序ニ縱陣列 (間距離間隔各六〇) 制形
 北方航路ヲ執リ 三。頃令ニ依リ發動第一警戒航行序列ニ占位
 一六。地點 $17^{\circ}8'55''N$ $160^{\circ}25''E$ 南下一七。令ナクシテ發動第二警戒航行序列トナリ
 二。泊地着揚陸作業開始 二二。同終了各隊毎ニ速ニ避退
 中央航路ヲ經テ歸投ス

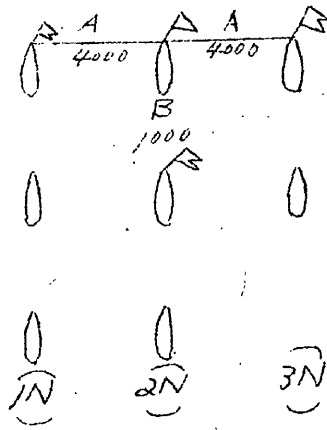
(2) 泊地警戒要領 (別圖第二)

イ 揚陸作業

輸送隊ハ陸出テニ近接漂泊シテドラム走投入自艦小發 (艇員陸兵)
 ラシテ導索ヲ陸上作業員ニ渡シタル後小發ヲ收容ス
 情況止ムヲ得サレバ小發ヲ泊地ニ殘留シ或ハ導索端ニ錘量附旗浮標ヲ
 附シテドラム走ヲ放棄スルコトヲ得

147.

9260



高波(第一輸送隊) 長波(第二輸送隊)
 (距離間隔六〇〇)

六警戒航行序列
 第一(晝間)

第二(夜間)

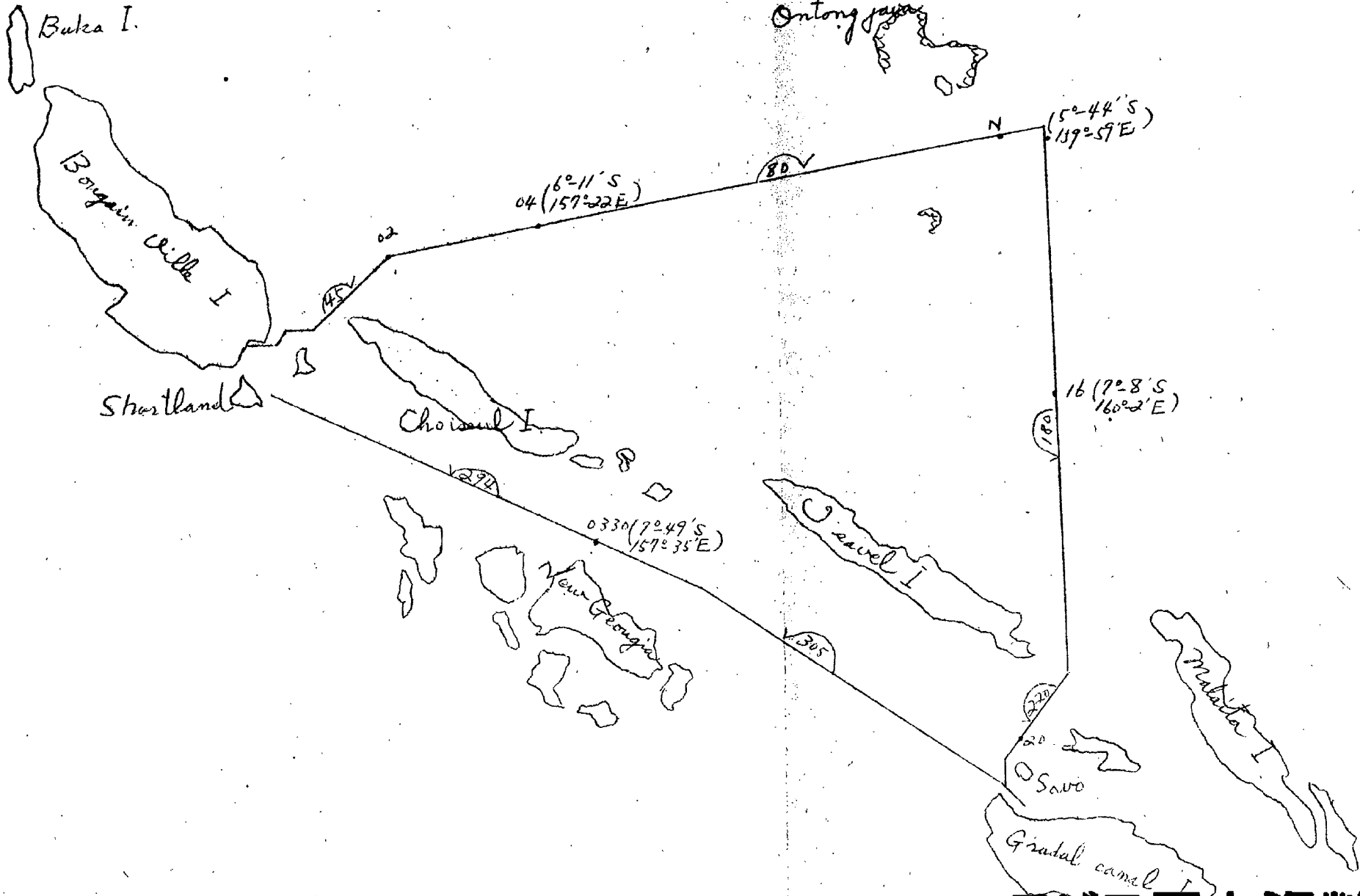
五會敵處置
 泊地進入前ヨリ敵奇襲兵力ニ對シ嚴重警戒シ突嗟戰鬥ニ関シ
 遺慮ナキヲ要ス
 揚陸作業中敵魚雷艇ニ對シテハ敬言戒艦極力撃攘ニ努ムルモ水上
 兵力出現セバ作業ヲ中止シ全軍集結之ヲ捕捉湮滅ヲ期ス

第一輸送隊	第一輸送隊	敬言 戒隊	△	増援部隊	隊	通話番號及特定信號符字
隊	隊	隊	隊	水	信	號
隊	隊	隊	隊	し	符	字
雪三	雪一	雪二	雪〇	雪	通	話
					番	號

機待機
 出雲時ヨリ
 1530 30 ヨリ
 二節即時
 三〇節即時
 二六節二十分待機
 最大戰速二十分待機

(終)

密外南洋部隊増援部隊命令作第三號別圖第一
(南方要圖ト同尺度)

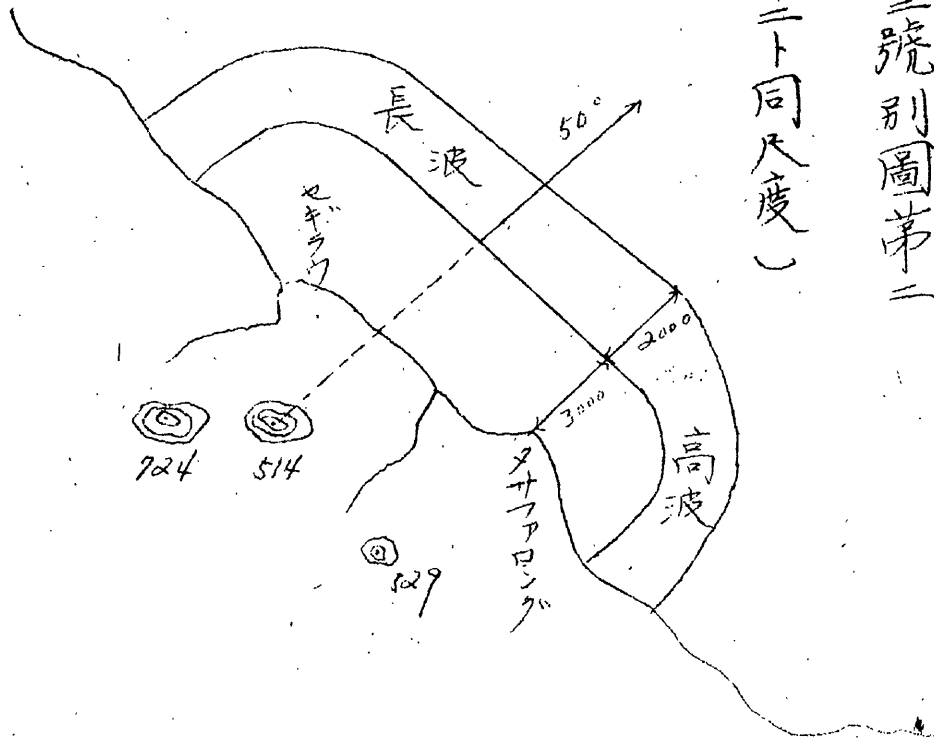


150 260



サホ島

機密外南洋部隊増援部隊命令作第三號別圖第二
 油地警戒要領圖
 (特種兵要地点圖ソロン群島其ノ下ト同尺度)
 警戒艦ハ哨区内ヲ左廻リニ
 旋回シツツ警戒ヲ任ズ



別紙
令達報告等

發元日時	受日宛(通報)時	令達報告等	別種
増援部隊指揮官	<p>三九日一〇五〇 2sd司令官 GF 11AF 各司令官 115f 1B9 各司令官 大海参一部長 15dg 24dg 31dg 各司令</p>	<p>外南洋部隊電令作第二五二號 増援部隊指揮官ハ左ニ依リ「カナルカナル」ニ對スル 陸海軍用糧秣及彈ノ輸送ヲ實施スベシ 一揚陸日十一月三十日十二月三日六日九日十二日 二充當驅逐艦第一次乃至第二次輸送ハ八隻 以後約一六隻 三揚陸点「タハロンク」及「セキラウ」河口附近狀況ニヨリ 「エスベランス」併用</p>	無
8F 参謀長	<p>三九日一八四二 加島守備隊長 一七軍参謀長 一船舶團長</p>	<p>一「カナルカナル」ニ對スル「ドラム」罐輸送ハ十一月三十日 十二月三月六日九日十二日實施セラル「タハロンク」 「セキラウ」河口附近一部ハ「エスベランス」ニ揚陸ノ豫定 ナル處左ニ関シ示達アリ度</p>	電

GF/AF 各參謀長
 大海一部長
 司令官
 2sd
 15dg 24dg 31dg 各司令

- (イ) 第一次輸送ハ糧秣入ト云々罐總計一〇九八
 外ニ治療品若干ニシテ内海軍用計一〇罐アリ
 (ロ) ドラム正ニ〇乃至二四〇庄(×分)毎ニ道守索
 ニ〇〇米ヲ附シ道守索ヲ小發ニテ陸上ヲ送ル
 (ハ) 道守索ニ就クベキ人員ハ六〇名ヲ適度トス急張ヲ
 避クト肝要ナリ
- (ニ) 大發ニ依ル速カハ五〇個連繫ノ場合約二節
 ニ〇個ノ場合約五節ナリ
- (ホ) 一連鎖ノ約半數ニ浸水充満スルモ其全部ヲ
 沈没セシムルコトナキ見込
- (ヘ) ドラム並ノ栓抜要具ハ一〇個ニ付二個ノ割合ニ
 準備シアリ
- (ト) 道守索ハ毎後使用ヲ考慮極力回收保存
 アリ度
- (チ) 傷病者ハ毎回成ルビク多數收容ノ為現地大小
 發以下ノ利用及艦載小艇ノ最終便ニ乘艇ノ

152 2882

<p>増援部隊参謀 三九日一七五二</p>	<p>8F 参謀長</p>	
<p>通基地指揮官 8F 参謀</p>	<p>三九日一四四七 2sd 司令官 GF 11AF 参謀長 大海一部長 1sdg 11sf 司令官 24dg 31dg 司令官</p>	
<p>トドラム 罐輸送ニ關シ小艇不足、為各艦一隻、使用且揚陸時間短少ナルニ付各艦主索一本ニ</p>	<p>一、ガタルカナルニ對スルトドラム 缶輸送ニ関シ當方トシテハ「タサハロング」セギラウ 河口附近ニ成ルベク多數ノ揚陸ヲ希望スルモ入江隻數ノ關係上已テ得ガル場合ニ限リ、エスペランスニ揚陸尚敵警戒艦トシテdx1程度ヲ允當ノコトトセラレ度尚陸庫ニ於テハ彈藥ノ缺乏亦甚シキ實情ニアルヲ以テ第二次以後ハ家村参謀ト連絡從前ノ輸送法ヲモ一部混用セラレ度</p> <p>二、傷病者ハ情况之ヲ許セバ從前ノ例ニ倣ヒ毎回成ルベク多數收容ノコトニ努メラレ度</p>	<p>コトトシテ充分統制ヲ執リ揚陸作業ヲ好メザル様努メラレ度 特ニトドラム 缶投入前艦側ニ接近スルハ危険ニシテ且作業ノ好害トナラサル様留意セシメラレ度</p>

5

<p>AAF 参謀長</p>	<p>ISF 司令官</p>	<p>三九日〇三五 増援部隊 指揮官</p>	
<p>2sd 司令官 GF 8F 各参謀長</p>	<p>30日〇七五七 2sd 司令官 GF 8F 各参謀長 IAB 指揮官</p>	<p>ISF 司令官 AAF 8F 各参謀長</p>	
<p>貴隊ノ今次ガカナル輸送航路日没附近位置 ライオン基地ヨリ約二六〇哩トナリ誘導機ヲ付スルモ 戦斗機飯投極多テ困難ナルヲ以テ直衛ハ五〇〇</p>	<p>以上延スコト 困難ナリ</p>	<p>AAF 機密第二九〇七二六番電関聯 明三十日夕刻敵空襲ノ顧慮極メテ大ナルニ付 貴隊飛行機ニヨリ日没前後ノ輸送部隊上空 警戒ニ付特ニ配慮得度 一〇一〇</p>	<p>全部連結シタサフラスハ三四〇個附三本 一四〇個附一本セキラウハ二〇〇個附二本ナリ ニタサフラス隊ハ第一第二揚陸點ニ各二隻宛 入泊ノ豫定 一七〇八 通報 脇谷部隊長 祝部隊長</p>

153 7860

SF参謀長	江村参謀	丙空襲部隊 指揮官	SF参謀長	
増援部隊指揮官 三十一日一八五〇	指揮官 三十一日一六一〇 IAF各参謀長 ソール方面軍	三十一日一五二六 6AB司令官 〔基地航空部隊〕	三十一日二三四二 2SD司令官 IAF参謀長 ISF司令官	ISF司令官
本日晝間、ルンガ岬ニ驅逐艦二隻輸送船九隻入泊シアリタリ。敵警戒ニ関シ留意アリタシ	本三十一日、ルンガ岬(一部ハコリ岬)ニ入泊セル敵艦船輸送船九隻	増援部隊上空直衛 第一直 四機 第二直 六機 第三直 六機 本三十一日、ルンガ岬(一部ハコリ岬)ニ入泊セル敵艦船輸送船九隻	二航路ハ、元分ノ余裕ヲ以テ決定関係各部ニ通報セラレ度 一、今次ノ如キ大迂回航路ハ、敵ノ意表ニ出ル利点ハ、アルモ上空直衛實施困難ニ付、上空直衛ニ重点ヲ置カサル特種ノ場合ニ採用スルコトトセラレ度	迄ヲ限度トスルニ付御諒承アリ度

<p>三十日三。七</p>	<p>増援部隊 指揮官</p>	<p>三十日二四。〇</p>	<p>三十日。四五二 司令官</p>
<p>各参謀長</p>	<p>大海参一部長 司令官 加通基地指揮官 第二船团长</p>	<p>司令官 加通基地指揮官 各参謀長</p>	<p>各参謀長 司令官</p>
<p>戦事速報</p>	<p>二一五、夕サヲロシテ沖ニ於テ敵戦艦巡洋艦駆逐艦十數隻ト交戦戦艦一隻撃沈大巡一隻 軍艦沈没駆逐艦二隻連沈 我方高波連絡ナシ調査中 揚陸作業ヲ止メ二三。〇シヨトランドニ向ケ引揚カ 二二二五</p>	<p>當隊明日。三三。〇地点ケノ早朝ヨリ對潜對空 直衛機派出方特ニ考慮ヲ得度 二三四。〇</p>	<p>高波昨夜戦事後海岸ニ据坐ノ疑アリ 状況調査ノ上速報ヲ得度 〇四四。〇 潜水艦ヲシテサボ島ノ南六哩附近ニ漂流中ノ 高波ノ情况ヲ偵察監視セシムラレ度</p>

<p>乙潜水部隊 指揮官</p>	<p>江村参謀</p>	<p>加島守備隊長</p>	<p>加島守備隊</p>
<p>1日一七一九 伊田潜 乙潜水部隊 2sd司令官</p>	<p>1日一五八 8F参謀長 2sd司令官 15dg司令官</p>	<p>1日一三〇九 2sd司令官</p>	<p>1日一三四七 2sd司令官 15dg司令官</p>
<p>乙潜水部隊機密第一〇番電ニ依ル 高波ノ偵察監視ヲ止メ、シヨトラドニ取投セヨ 調査中ノ電アリ</p>	<p>貴機密第一〇九〇七番電返 一海戦以後注意中ナルモ見當ラズ 尚、エペランス及カミノボニ搜索方手配中 ニ、エペランスヨリ高波砲術長江間中尉外ニ名 一内一名陸兵ノ收容ノ電アリ更ニ高波ノ行衛ニ付</p>	<p>高波 砲術長江間中尉外海兵一名陸兵一名 エペランス見張所ニ收容セリ</p>	<p>貴機密第一〇四四〇番電返 エペランス以東ナシカミノボ方面後報ス</p>

<p>一月一五〇〇 増援部隊 指揮官</p>	<p>GF 2F 11AF 各司令官 11AF 26AF 各司令官 加通基地指揮官 大海一部長</p>	<p>加島守備隊長 二日一四三二 28d 2F 参謀長 司令官</p>	<p>GF 6F 8F 各参謀長</p>
<p>發江間中尉</p>	<p>高波被彈ニ依リ機械停止ニ三〇〇頃總員退去ト 同時ニ右舷ニ傾斜顛覆復後部大爆發ト共ニ 沈没收容人員調査中ナルモ司令以下現在迄ハ 人員四〇内外ト思考ス</p>	<p>増援部隊 戰鬥概報第三號 一 増援部隊 トラム 主輸送ノ目的ヲ以テ二十九日 二三〇〇シヨトランド 出島北方航路ヲ執リ進出 〇七三〇ヨリ四十五分間 B 必一機ノ接触ヲ受クテ後ハ 友軍戰鬥機觀測機、有カナル有衛ヲ配セラレ 敵機ヲ見ズラモス 島附近ニ於テ豪雨ノ爲一時 行動困難トナリシモ暫時ニシテ回復當日ルンガ 沖ニ敵駆逐艦十二隻在泊ノ情報アリ 會敵ヲ豫期シテ進島ニ二〇〇ワサハロシク中ニ於 テ敵發見揚陸ヲ止メ突島ヲ下令セリ 敵戰艦</p>	<p></p>

155 8960

Bx1 14
CAX1
dx1
Cx3 78(NX/14)

Bx1
Cx4
dx12

三隻(大口徑砲弾片ニ依ルモ確實)ヲ中ハドシ前後
 巡洋艦四隻驅逐艦十二隻ヲ配シルンガヨリ
 北西ニ展開 照明飛行機四機ヲ飛翔待機
 中ニシテ多數吊光弾(味方非敵側)投下ト
 同時ニ齊ニ猛射ヲ開始ス
 各隊之ニ對シ強襲ヲ決行各艦輸送ノ為
 豫備魚雷ヲ有セザリシ為ニ三〇西方ニ避退
 中央航路ヲ經テ、シヨートランドニ般投セリ
 發射砲數對戰艦三對巡洋艦一(高波ヲ除ク)
 戰果
 新式戰艦(ワシントン型)一隻撃沈 巡洋艦
 (オーカスタ型)一隻車輪沈 驅逐艦一隻車輪沈
 三隻火巡(内一隻沈没)
 我方長波大口徑砲片ニ依リ小損高波ハ連絡
 杜絶シ、*15dg*ヲシテ調査セシメ、サボ島ノ南方六哩
 附近ニ航行不能ニ陥レルヲ發見救援ニ努メシモ

E

四日二五五
増援部隊
指揮官
各司令長官

戦艦概報追加訂正
増援部隊戦艦概報第三號中敵戦艦
(ワシントン型)艦型ハ其ノ沈没前陽炎近接照

敵巡洋艦三隻 駆逐艦三隻 來龍爲目的ヲ
達成シ得ズ沈没セルコト略確實ナルモ尚詳細
調査中
三所見
一 敵情鑑ミ此種作戰ハ有力部隊ノ直接
支援ヲ絶対必要トス
二 島周遊敵水上兵力ノ綿密ナル飛行索敵ヲ
必要トス
三 制空ヲ先決要件トスルモ能ハサレバ揚陸時
小數機ノ空襲ニ依リ敵ヲ混乱牽制スルハ有効
ナルベシ
四 黒潮魚雷自爆アリ速ニ對策ヲ講グル必要
アリ
一日一五〇〇

<p>七月一九二九 増援部隊 指揮官</p>	<p>加島通信基地 大海一部長</p>	
<p>増援部隊戦事概報追加 高波航海長江田豫備中尉調査セル所左通 同艦敵言成艦トシテ先頭輸送隊北方約四料ヲ 警戒前進中ニ二二。敵巡洋艦駆逐艦約七隻ノ 艦中砲火ヲ蒙リ直ニ反撃其ノ二隻ヲ炎上一隻ニ 損害ヲ與ヘタルモ自艦又大損害ヲ受ケ航行 不能ニ陥レリ魚雷發射セルモ効果不明ニ三。頃 親潮黒潮救援ノ為接近セルモ敵巡洋艦二 驅逐艦三來襲セル為離脱セリ其ノ後敵損傷 艦約四〇〇米ニ近接シ來レルモ交戦ノ余カクシテ 逃避セリ 〇〇〇頃司令命依リ自沈ノ處置ヲ講ジ機密 圖書ノ處分ヲ完了ノ上乗員退去中ニシテ艦尾ニ 敵ノ魚雷命中爆發セルモノ如シ引續キ爆發</p>	<p>射シる塔煙突艦橋ノ形状等ニ依リ確認セリ (以下各略)</p>	

1660

25d 百〇一〇五
司令官

GF, 8F, 11AF 各参謀長

誘爆依リ、サホ島南約六哩ニ於テ沈没セリ
 吾迄ニ判明セル生存者准士官以上四名下士官兵
 二九名全部、ショートランドニ飯還セリ
 司令官が島一〇米附近ニテ認めタル者アルモ消息ハ
 不明、駆逐艦長ハ艦橋ニテ戦死
 沈没前海中ニ飛込ミシ者約一〇〇名其他ハ艦ト
 運命ヲ共ニセリト認め
 既報、戦果ニ巡洋艦(駆逐艦ナルヤモ知レズ)一隻
 大破ヲ追加
 同艦、同夜戦ニ於テ、敵艦トシテ先頭ニ猛突入
 敵情ヲ明ニシ又其、攻勢火炎ヲ生起セル敵艦ハ
 敵隊列ヲ背景ニ照明セルコトナリ、我が才戦果ヲ
 大ナラシメ其、功績拔群ナリト認め
 今夜々戦ノ状況ニ見ルニ敵ハ有力部隊ヲ集結シ
 二空ニ哨戒機四ヲ配シ我ヲ激撃手セリ本夜戦ニ於テモ
 殘敵巡洋艦駆逐艦尚相當數アリ

157

0992

最近「島」に於ケル敵水上兵力ノ活躍ニ鑑ミ之ガ
 撃滅ト輸送トハ函之シ難キ所ニシテ此ノ種作戰
 實施上次ノ考慮ヲ必要ト認ム

一有カナル支援部隊ヲ配シ先ツ敵水上兵力ヲ
 殲滅スルコト

二飛行索敵ヲ綿密ニシ敵水上兵力ノ動靜ヲ
 確知スルコト

〇一〇五